

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 光ファンクションジェネレーターで拓く光周波数エレクトロニクス技術
2. 研究代表者： 吉井 一倫（龍谷大学 先端理工学部 講師）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、「光パルスの分散補償の限界」というパラダイムを打破し、物質深部でモノサイクルパルス光を発生できる『光ファンクションジェネレーター』を独自の手法で開発することを目指している。フェーズ1では、光ファンクションジェネレーターのパルス幅測定機能以外は、ほぼ完成されており、着実な進展が見られる。また、自らが発案した研究交流会を企画するなど、積極的な参画は高く評価できる。フェーズ2では、フェーズ1での未達項目をしっかりと把握し、遅れの回復、重要目標の達成に向けて計画の再構築が示されており、妥当と認められる。光超高速電場を用いた物性測定はインパクトが大きいと考えられ、日本の超高速光技術の今後の進展にとっても重要な位置づけとなる研究になることを期待する。

以上